

- 季刊 -

03

FUKUYA
in KOCHI

2025.6

TAKE FREE

Fuu

あなたの暮らしに、新しい風

FUKUYA LIFESTYLE MAGAZINE

〔特集〕 緑のある暮らし



フリーマガジン「Fuu」

編集／フクヤ建設株式会社（担当）広報課 石川 藍

デザイン／2.0design 高木恵里

写真／エム・フォトオフィス 前田実津

〔発行元〕

フクヤ建設株式会社

〒781-0015 高知市薊野西町3-35-29

☎ 088-845-4618

✉ fukuya@fukuya-h.co.jp

📷 @fukuya.kochi

📺 フクヤ建設 🔍



特集

緑のある暮らし

窓辺に飾る一輪の草花、外観を印象づけるシンボルツリー、
緑いっぱいの庭をかけまわる子どもたち。

今号では、緑とともにある暮らしのかたちや、庭づくりの職人の想い、
花のしつらえの工夫など、緑を身近に感じるさまざまなライフスタイル
をご紹介します。特集インタビューでは、広い庭と自然に囲まれた平屋で
のびやかに暮らす家族の姿をお届けします。

芝の庭、本棚のあるリビング、田畑の景色——

緑のある暮らしの心地よさが、日々の営みにやさしく息づいています。

緑があるだけで、暮らしの景色がほんの少し変わって見える気がします。

その小さな変化が、気づきやゆとりを届けてくれますように。

そんなきっかけになればうれしいです。



フクヤ建設の家、ひと、暮らしを伝える

フリーマガジンFuu(フウ)は「あなたの暮らしに
新しい風を吹かせますように」そんな思いで、

2023年6月に創刊しました。

日々さまざまな角度から暮らしを考え提案し続ける

当社の働きから、これからの暮らしや

人生を楽しむヒントが見つかりますように。

そして、このマガジンを手にする時間が「ふう」と心

安らぐものになればうれしいです。

CONTENTS

特集

[住まい手インタビュー]

どんなふうに、
暮らしていますか？ 03 - 08

時をつむぐ暮らし 09 - 10

「まち」をつくる 11 - 12

あのひとの飾り方 13

すまいとこそだて 14

フクヤで働く、フクヤと働く 15

社長の本棚 16

melbaの、おやつ 17



特集

どんなふうに、
暮らしていますか？

interview

風景にひらかれた
平屋で、家族と過ごす
穏やかな暮らし

ダイニングの角に設けられた大きな窓からは、田畑のひらけた風景が広がる。春になると、お隣の白菜畑には菜の花が咲き、一面がやさしい黄色に色づいて、春の訪れを感じさせてくれたという。そんな自然とつながる環境に惹かれて、この土地を選んだ。街なかでの暮らしに比べて、子どもたちも外へ出て遊ぶ時間がぐんと増えたそう。平屋の住まいは、暮らしの中心であるリビングダイ

ニングに自然と家族が集まり、それぞれが思い思いに過ごせるつくりになっている。視線が抜けて圧迫感がなく、互いの存在を感じながらも干渉すぎない距離感も心地よい。そんな日々の積み重ねが、この家にしかないゆとりと安心感を育てている。

本がある、
やさしい時間

「壁一面の本棚が欲しい」――そんなご主人の思いから生まれたリビングの本棚は、正方形のシンプルなデザインで空間に心地よくなじんでいる。小説好きのご主人は文庫本をずらりと並べ、2段目より下は絵本やおもちゃを並べた子どもたちのエリアに。お気に入りの絵本を次々と紹介してくれる様子から、本への親しみが自然と伝わってくる。シンプルで飽きのこない正方形のデザインも特徴で、LDKと緩やかにつながりながら、暮らしの真ん中にやさしく寄り添っている。

「ただいま」から 始まる庭あそび

保育園から帰ると、まっすぐ庭へ。芝の丘をキックバイクで滑ったり、虫を見つめたり。外遊びが日常にすっかり溶け込んでいる。設計士の提案でつくられたこの丘は、子どもたちの「やりたい！」が自然と叶う遊びの場。ほどよい傾斜と芝のすべり心地がちょうどよく、取材中も飽きることなく何度もすべっては笑顔を見せてくれた。平屋の住まいは、家のどこにいても外とのつながりを感じられ、自然がすぐそばにあるような開放感がある。リビングと地続きになったデッキでは、朝ごはんを食べたり、気軽に着替えしたり。玄関まわりも広々としていて、外との出入りもスムーズ。暮らしのすぐそばに自然があり、からだを動かすことや季節の変化が日常の一部になっている。そんな環境が、子どもたちの表情をいきいきと輝かせている。



きれいって、うれしいね

3月に森田フラワーガーデンにお願いした植栽は、玄関のすぐ横に配置され、毎日の生活の中で自然と目に入る場所にある。家族で水やりをするのが日課で、花が咲いた日には子どもたちが「きれい！」と声を上げる。そんなふうに自然とふれあい、手をかけることで、「美しい」という感覚が少しずつ育っていく。暮らしの中にある小さな変化や季節の訪れに気づくこと。それは、大人にとっても、ふっと心がゆるむやさしい時間になっている。外と中の境界がゆるやかにつながる平屋のつくりは、緑を感じながら過ごせる心地よい設計。広めの玄関やデッキも子育てにやさしく、子どもたちも自然と行き来しながら、自分のペースで過ごしている。家族みんなが気負わず自然体でいられる、そんな空間ができています。



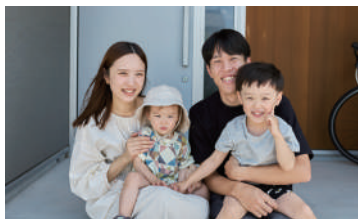
虫が大好きな長男くん。この日は小さなバッタを見つけて、じっと観察中。



緑と育てる、
これからの暮らし

森田フラワーガーデンの森田さんが手がけた玄関まわりと南側の植栽。「アオダモを植えたい」とだけ伝えたところ、石や下草、中低木を織り交ぜながら風景に馴染む植栽に仕上げてくれた。南側の窓辺には、虫がつきにくく育てやすいミモザ・ブルーブッシュを植栽。3月に植えたばかりで、来年の開花を家族みんなで楽しみにしている。やがて大きくなれば、目隠しとなり、木漏れ日が室内へ

と差し込む。季節ごとに表情を変える庭が、暮らしのなかにあること。それは、日々に彩りとやすらぎを与えてくれる存在でもある。当初は畑にしようと考えていた場所。そこに植えた一本の木が、いまでは季節ごとの変化を知らせてくれる存在になった。ふとした瞬間、目に入るその緑に、なぜか少しうれしくなる。そんな小さな喜びが、静かに積み重なって、暮らしの風景になっていく。



安松様邸

ご家族構成／4人
施工年／2024年 8月
延床面積／29.06坪
構造／木造平屋建て



「間取りのこだわり」

Point 1
玄関からLDKへの2方向動線により回遊性が生まれ、家事効率も良好。西側に寝室・水まわり、北側に子ども部屋・WICを配置し、用途に応じたゾーニングが明快。プライベートと共有スペースの緩やかな分離が、家族の成長後も心地よい距離感を保ってくれる。南に開かれたLDKは自然光に満ち、キッチンからは室内全体と庭まで見渡せるよう設計されており、家事中も安心できる視線計画となっている。



暮らしを描き、かたちにする——設計士のことば

「ぜひ竹村さんに担当してほしいご家族がいます」——営業担当からそう声をかけられたのが、安松様との家づくりの始まりでした。土地選びの途中で初めてお会いした際も、間取りより先に、暮らしの価値観や理想のシーンについてたくさんお話を重ねたことをよく覚えています。そよぐ緑のそばで遊ぶお子さんたち、窓辺のダイニングに家族が集う時間、静かな夜に小さな灯りの下で本を読むご主人の姿——ふと浮かんだのは、派手ではなくても大切にしたい日々の光景でした。互いに共感しながら思い描いたそのシーンを、素直に設計に落とし込み、現場が丁寧に形にしてくれた。こうして一緒に積み重ねていく時間そのものが、家づくりのいちばんの醍醐味だと改めて感じることができました。



担当設計／大原(竹村)春香

緑とめぐる、 暮らしのリズム。

自然の恵みとともに丁寧に暮らす——そんな言葉がびったりのお宅を訪ねました。お庭には、リボベジ(再生野菜)で発芽させたじゃがいもや、友人から譲り受けたバラ、こぼれ種から毎年咲く草花など、自然の営みに寄り添う植物たちが生き生きと根を張っています。印象的だったのはそのどれもが「もらいもの」や「再利用」から始まっていること。レンガのアプローチも知人から譲り受けたもので、自ら敷き詰めた手仕事の跡が美しく残ります。ほうき草で編んだほうきや、手動の芝刈り機など、日々の手入れの道具にも美意識が滲みます。

「自然のものは自然のなかで楽しみたい」と、こく自然体で庭と向き合い、朝には必ず外に出て植物の声に耳を傾ける小嶋さん。大きな樺の木がつくる木陰、四季を感じさせる草花、暮らしに馴染む道具たち——すべてが緩やかに循環しながら、居心地のよい時間を紡いでいました。

After POINT

〔自然と対話しながらつくる、わたしの庭時間〕



POINT 01

種をまく前の、
ちいさな手仕事

“ペーパーポットメーカー”という木製の道具で、新聞紙が育苗ポットに。リサイクル紙でつくるポットは、見た目も愛らしくてエコ。こうした自然に寄り添う工夫が、日々の庭しごとにさりげなく息づいている。



POINT 02

飾らずに、
季節のままに

あちらこちらに咲くクレマチスやクリスマスローズ、ときにはヤマボウシも。花は摘まず、庭のなかでそっと楽しむのが小嶋さんのスタイル。咲き終わった後の手入れまで、季節の流れに合わせて丁寧に続けている。



POINT 03

整えることを、
たのしむ暮らし

庭で育てたほうき草を、自分の手で束ねてほうきに。身のまわりのものを、できるだけ庭の恵みから手づくりで。雑誌や講習で学んだ知恵を、自然な工夫として、暮らしと庭の両方にやわらかくなじませている。



時を
つむ
ぐ
暮らし

小嶋様邸

家族構成／3人
リノベーション施工年／
2011年10月
構造／木造二階建て
延床面積／60.32坪



親子でほんとひと息 つける時間

ベビーカーのまま入れる広さと動線に加え、ローソファ席や授乳室、子ども用の椅子・カトラリーも充実。ディナーではアレルギーへの対応も可能で、親子にとって安心できる環境が整っている。

キッズカトラリーをご用意しております



ちょっとしたごほうびに、 テイクアウトも

ケーキやワッフル、ドリンクは持ち帰りもOK。おうちでのカフェ気分や、ちょっと甘い休憩時間にぴったりです。



BISTRO & CAFE FLAG

〒781-0015
高知県高知市薊野西町3丁目35-29
TEL / 088-879-3618
営業 /
モーニング 8:00 ~ 10:30 LO ※日曜日のみ
ランチ 11:00 ~ 14:00 LO
カフェ 14:30 ~ 16:30 LO
ディナー 18:00 ~ 21:00 ※4名様~予約制

※最新情報はInstagramにて
ご確認ください

@bistrocafe_flag



今日の気分に、ちょうどいいモーニング

ドリンクは約10種類。トーストやホットサンド、サラダ、ワッフルなどを自由に選べるセレクト式モーニングは、しっかり食べたい人にも軽め派にもぴったり。日曜の朝、親子で過ごすひとときにおすすめ。



BISTRO & CAFE FLAG

設計 / 矢野建築設計事務所
施工年 / 2023年5月
構造 / 鉄筋コンクリート造
施工 / フクヤ建設株式会社
延床面積 (店舗部分) / 408.04㎡



「まち」をつくる

No.03

風景をつくる、 食と憩いの空間

高知市薊野にあるフクヤ建設の本社2階にオープンした「BISTRO & CAFE FLAG」は、社員食堂を地域に開いたかたちのカフェ。家づくりを考える人はもちろん、近隣の人がふらりと立ち寄れる場所をつくりたいという社長の想いから生まれた。

店舗が面するのは、公園と桜並木が隣接する緑豊かなロケーション。森田フラワーガーデンによる植栽が建物の外構にも施され、まちの風景とやさしくつながっている。春には桜が咲き、「ここでお花見ができて嬉しい」という声も。敷地の緑に加え、テラス席や店内から見える風景そのものが、暮らしの中の豊かなひとときとなっている。

店内は広々としており、ベビーカーでも気兼ねなく過ごせる動線設計。屋根付きのテラス席やペット同伴可能な個室、授乳室など、多様な利用者にやさしい設備も整う。

平日のランチは、主菜・副菜・サラダ・お吸物付きの社食スタイル(数量限定)で、栄養バランスとコストの良さが魅力。日曜限定のモーニングでは、ドリンクに好みのパンやサラダを自由に組み合わせさせて楽しむ、親子でゆったり朝の時間を過ごす姿も増えている。



すまいと
こもほて



文・写真 / 松田 理吏さん(2022 年竣工 当社新築OB さま)

テーマ
「どんぐりの時間」



我が家は、自然と子育てが常にセットな生活スタイルだ。もともと、登山や雪山遊びが好きな夫婦なので、子ども達も必然的に緑に触れる機会があり、自然からの学びも多い。

ある日子どもたちと行った公園で、落ち葉の下から少しだけ殻が割れ、芽が出そうになっているどんぐりを見つけた。「植えたら芽が出るのかな?」と持ち帰り、鉢に植えてみた。その日から「まだ出ない、まだ出ない。(どこかで聞いたことがあるフレーズ...)」と観察する日々。しかし、待てど暮らせど土の上に芽が出てくる様子がない。もう掘り起こそうか、片付けてしまおうかと何度も考えたが「もうすぐ下まで芽が伸びてきているかもしれない!」「ゆっくりさんなのかも?」と子ども達の素直な気持ちにおされて、気長く一緒に待つこと約2年。ふと気づくと土から芽が!長い年月をかけて出てきてくれた芽は、今はリビングから見える庭のみどりの一員だ。子ども達はたったひとつの種から諦めないこと、可能性を考えること、親側は子ども達を信じること、忍耐強さを学ぶエピソードだった。

我が家の緑たちは子育てで親育てをしてくれながら、今日もにぎやかな私達を庭から見守ってくれている。

あのひとの飾りかた

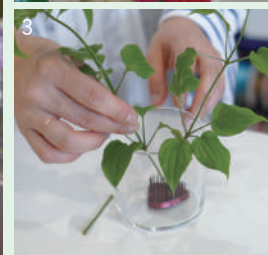
interior coordination

草青む 西森 友美 さん

“飾る”の先にある、
花と植物の選びかた。



高知市の花屋「草青む」店主。季節と感性を束ねた花選びと、花器を活かした空間づくりに定評がある。



1. 店内には一輪一輪が選ばれた器に丁寧に挿され、その佇まいが空間を静かに彩っている。
2. 個性的なフォルムのヴィンテージ花器たち。飾らなくても絵になる存在。
3. 初心者にも扱いやすいと注目の剣山。形が決まりやすくアレンジに活躍。

「草青む」という店名は、早春の草花の芽吹きを表す季語から名付けられた。店主・西森さんは、長年花屋に勤めたのち「自分でやってみたい」と思い立ち、自然な流れで独立。西森さんの花選びには、ただ飾るだけではない「感じる」ことへの眼差しがある。色、茎の動き、咲き方。それぞれの花の個性を見つめ、「そのときの自分の感覚に合うものを選ぶ」というスタイルは、まるで花との対話のよう。自身の感性をたよりに選んだ草花たちは、どれも色や茎の動きに個性があり、見る人の心にふつと風を通すようなやさしさがある。

「一本からでも気軽に飾ってほしい」と語る西森さん。飾る場所や器、贈る相手などを丁寧にヒアリングしながら、一本ずつ選ばれた花たちは、動きや色も個性的で、季節のうつろいを映す。ヴィンテージの花器やワイングラス風の器も扱い、空き瓶や海外のビール瓶などを使ったアレンジの提案もユニーク。最近では、初心者でも形がしまりやすい「剣山」の使い方も人気ののだそう。夏場の花もちを良くするには「水は少なめ、茎はこまめにカット」とのアドバイスも。お花を飾る楽しさを、優しく背中を押すように届けてくれる。

【草青む】
www.kusaomu.com/
T / F 0888-82116584
T 78010026
高知市秦南町1558 1F 東



@kusaomu

File 03
もりたフラワーガーデン 造園部
一級造園技能士
森田 克宏 さん

Q お庭づくりで
大切にしていることは？

A 「やっぱり、日本庭園の
基本ですね。」

「見て、ああ素敵」と言ってもらえるのが一番。そう語るのは、もりたフラワーガーデン造園部の森田克宏さん。庭好きなお父さまの影響で、学生時代から自然と庭仕事に関わってきた森田さん。京都での修業経験を持つ師匠のもとで、13年間じつくりと技を磨いた。厳しい職人の教えを受け、31歳で独立してから今年で20年になる。森田さんが今も大切にしているのは、昔ながらの日本庭園の基本。「不等辺三角形や奇数、主・従・添えのバランス。かたちを守ることで、自然と上手く収まるんです」。自然の樹形を活かし、足元まで丁寧に整える。石や草花が呼応し合う庭は、まるで静かな風景画のよう。手間はかかっても、四季の移ろいを感じられる落葉樹をすすめるのも「緑に癒されてほしいから」。アオダモなど、管理しやすい樹種の選定にも気を配る。庭づくりは、住まいの最後を飾る仕事。「仕上がりを見て喜んでもらえるのが何より。手入れをするうちに植物に愛着が湧いて、近づき、関わってもらえたらうれしいですね。森田さんの庭には、暮らしにそっと寄り添う「仕上げの美学」が息づいている。

社長の本棚

第三回

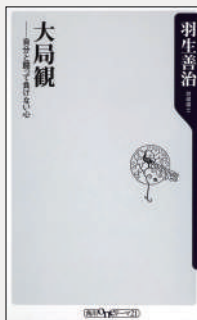
リスクと
向き合う力



今回ご紹介する一冊は、棋士・羽生善治名人の著書『大局観 自分と闘って負けない心』です。
この本では、「天才」と呼ばれた20歳の頃の自分に対して、多くの経験を積んだ「今の自分」がどうすれば勝てるか、という視点で語られます。若い頃は、リスクを顧みず素早く決断する中でリズムが生まれ、幸運が重なると、とてもない成果を出すことも多かったと綴られています。今では「リスクの取り方」が身についてきたと羽生さんは語ります。

経験を重ねると、リスクの重大さに気づき、挑戦を避けがちになります。当社が25年前に住宅分野へ本格参入した際、設計事務所が使うような床材や建具、内外装の塗装を標準仕様とし、大工任せだった納まりを図面化して施工するなど、大胆な挑戦を行いました。では、業界を知るとリスクを取りにくくなるのか？ 挑戦できなくなるのか？ そうではありません。リスクを取ったときのリターンと、取らなかった場合の損失を正しく認識し、恐怖に打ち勝つことが求められます。若い頃のようにやみくもに行動することが「リスクを取る」ことではありません。
私自身、業界経験も浅く、それがリスクかどうかすら分かっていませんでした。「当たり前が良い」と思うものを、多少コストがかかってもお客様に届けたい。今思えば、市場性や他社比較の視点は欠けていました。もし当時、リスクの意味を理解していたら、怖くてできなかったでしょう。一方で今はそれ

を認識できるからこそ、差別化のために別の手段も考えられます。ただし、リスクがあっても「やらねばならない」場面では逃げない姿勢が経営者に必要です。
本書の冒頭には、羽生さんが14歳年下の棋士に3連勝後、4連敗してタイトルを失った話が紹介されています。将棋界でも史上初の出来事であり、それが本書誕生のきっかけになったそうです。経験を積むと、決断に時間がかかるようになります。若い頃は、判断の遅い上司にいら立ち、大胆な決断を良しとしていました。しかし情報や選択肢が増えた今、それは容易ではありません。十分に考え、思慮深く結論を導くことが、長期的には良い結果につながる――。
直感で「よし、いける」と決断しがちな私は、その感覚に頼りすぎていないか、常に自問するようになりました。リスク回避とリスクテイクは、仕事や人生において繰り返される分岐点です。そんなときの道しるべになる一冊です。



自分と闘って負けない心
出版社：角川文庫

福家 淳也

1970年高知県高知市生まれ。明治大学商学部卒業。1971年創業の有限会社福家ハウジング（フクヤ建設株式会社）へ改称。2代目。大学卒業後、東京の会社で営業経験を積み1996年に有限会社福家ハウジングへ入社。6年ほど営業職として働いた後、取締役社長を務める。



この街に、ワクワクを創造する。

FUKUYAは「建築・不動産で、暮らし・空間・その場所に
新しい価値を生み、ワクワクを創造する」という企業理念のもと
家づくりだけでなく、公共民間事業やカフェ経営など
さまざまな事業を展開しております。



東京証券取引所に
上場いたしました

2024年11月



【資料請求・問い合わせ】

家づくりに関するお問い合わせ・資料請求
はこちら。個人情報の入力なしで、アンケートに
答えてご覧いただけるweb 簡易版パンフレットもご
利用いただけます。

こちらから→

フクヤ建設 公式LINE
からもお気軽に
お問合せできます

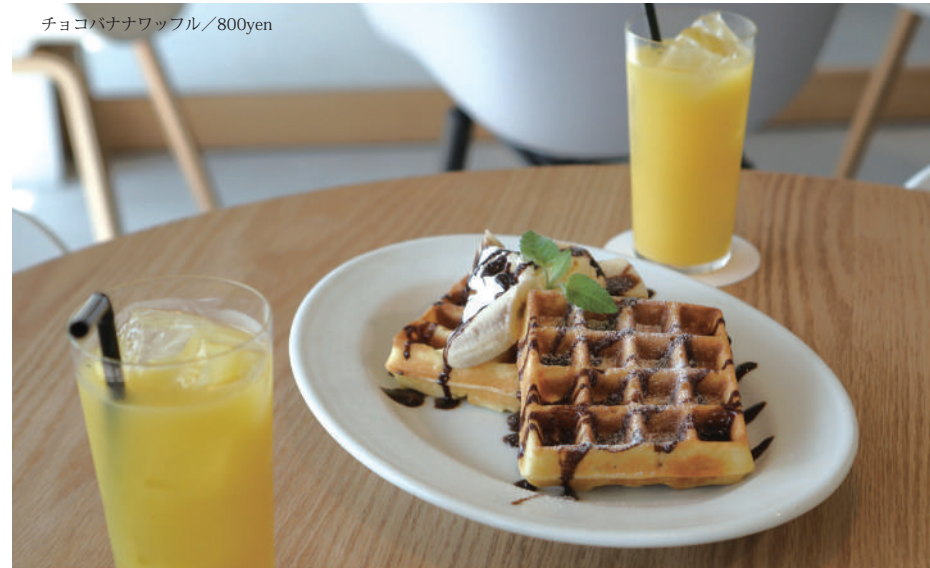


公式 Instagram

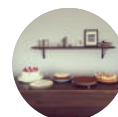
ライフスタイルマガジン「Fuu」は、フクヤ建設の家、ひと、暮らしを発信します。日々さまざまな角度から「暮らし」を考え、提案するわたしたちのお届けする情報が、あなたの暮らしに、新しい風を吹かせますように。公式Instagramでは、誌面には載せきれなかった写真をギャラリーのように投稿しております。

melbaの、おやつ。

チョコバナナワッフル／800yen



分け合うおいしさ、
チョコバナナワッフル



デザート監修
melba 上園さん

南国市でテイクアウト専門のケーキ屋さん「melba」をひとりで営む。旬のくだものを使ったタルトやショートケーキなど、素材にこだわったシンプルなケーキが人気を呼び、オープン時には行列ができるほどの人気店。ご縁から、お店の傍らFLAGのデザートメニュー全般の監修を担当している。

本社 2 階 社員ランチが
食べられるカフェ

**BISTRO & CAFE
FLAG**

@bistrocafe_flag



サクッと香ばしく、ふんわり軽やか。FLAGのワッフルは、毎日店内で丁寧に焼き上げています。お砂糖は控えめに、からだにもうれしい素材選びにもこだわっています。今回おすすめするのは、バナナとチョコソース、バナナアイスをたっぷり添えた「チョコバナナワッフル」。お子さんにも大人気の定番メニューで、親子でシェアするおやつ時間にもぴったりです。FLAGのワッフルは「ブレイク」「チョコバナナ」「キャラメル」の3種類。なかでもチョコバナナは、初めての方にもおすすめの一品です。セットドリンクには、ビタミシカラが元気をくれるオレンジジュースを。甘さと酸味のバランスがよく、ワッフルとの相性も抜群です。店内には、くまさんのお皿やお子さま用のスプーン・フォーク・コップ、ベビーカーのご用意も。小さなお子さま連れでも安心してゆっくりお過ごしいただけますよ。

BISTRO & CAFE FLAG 通常の営業時間

モーニング 8:00 ~ 10:30 LO ※日曜日のみ
ランチ 11:00 ~ 14:00 LO

※最新情報はInstagramにてご確認ください

カフェ 14:30 ~ 16:30 LO
ディナー 18:00 ~ 21:00 ※4名様~予約制

個室・テラス

わんちゃんOK

授乳室あり